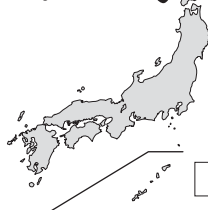


国土学事始め



大石久和

国土技術研究センター理事長

道路は利権だといった話ばかりが流布して、普段から道路を使っておられる皆様には、ずいぶん不信感をお持ちになったり、不愉快な思いをもたれた方も多いのではないかと心配しています。

道路の整備は、地域の土地利用を大きく変えたり、産業の配置を決めたりする力

を持っていきますから、政治の実現過程と言っても過言ではありません。しかし、道路の本来の役割・機能について、わが国では、政治からのメッセージも少ないようです。

比較のために、EUの首脳は道路などのインフラについ

道路とは何のための社会資本か

今こそ、議論を

て、最近どのような発言をしているのか、見てみましょう。いくつかの例をご紹介します。

はじめに、ブレア前イギリス首相のコメントです。「優れた交通システムは、経済および社会の繁栄に欠くことのできないものである。(中略)

わが国の交通システムは、何十年にもわたって過少投資の状態が続いてきた(2004年10月)。

このコメントは、1990年代における交通や住宅などのインフラ整備に対する過少

投資が問題を生んだ、という認識に基づくものでした。

こうして最近では、公共投資額を大幅に増額しています。

次にイタリアのプロディ前首相の演説を紹介しましょう。「インフラストラクチャーへの投資を怠っては、グローバル化に伴う競争のなかで、イタリアは生き残ること

ができなくなる(2006年3月)。

これを受けてイタリアでは、07年から始まる交通基盤施設のための大きな投資計画を策定しました。

フランスでは、コペ予算担当大臣の演説です。「05年に交通関係社会資本整備基金を設置したが、その額を引き続き増額する(2007年6月)。

わが国よりも、相当に豊かな交通インフラストックを持っているはずのこれらの国々。何かずいぶん議論の様子が違うな、とお感じになりませんか。

いま、利権議論を超えて、道路とは本来何のための社会資本なのか、を踏まえた議論こそ、なければならぬ、と考えます。